

# 平成26年度 自己評価報告書

(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

平成27年6月

学校法人 I G L 学園  
**IGL** 医療福祉専門学校

# 目 次

|                         |    |                              |    |
|-------------------------|----|------------------------------|----|
| 教育目標と本年度の重点目標の評価.....   | 1  | 基準5 学生支援.....                | 21 |
| 基準1 教育理念・目的・育成人材像.....  | 2  | 5-16 就職等進路.....              | 22 |
| 1-1 理念・目的・育成人材像.....    | 3  | 5-17 中途退学への対応.....           | 23 |
| 基準2 学校運営.....           | 4  | 5-18 学生相談.....               | 24 |
| 2-2 運営方針.....           | 5  | 5-19 学生生活.....               | 25 |
| 2-3 事業計画.....           | 6  | 5-20 保護者との連携.....            | 26 |
| 2-4 運営組織.....           | 7  | 5-21 卒業生・社会人.....            | 27 |
| 2-5 人事・給与制度.....        | 8  | 基準6 教育環境.....                | 28 |
| 2-6 意思決定システム.....       | 9  | 6-22 施設・設備等.....             | 29 |
| 2-7 情報システム.....         | 10 | 6-23 学外実習、インターンシップ等.....     | 30 |
| 基準3 教育活動.....           | 11 | 6-24 防災・安全管理.....            | 31 |
| 3-8 目標の設定.....          | 12 | 基準7 学生の募集と受入れ.....           | 32 |
| 3-9 教育方法・評価等.....       | 13 | 7-25 学生募集活動は、適正に行われているか..... | 33 |
| 3-10 成績評価・単位認定等.....    | 14 | 7-26 入学選考.....               | 34 |
| 3-11 資格・免許の取得の指導体制..... | 15 | 7-27 学納金.....                | 35 |
| 3-12 教員・教員組織.....       | 16 | 基準8 財務.....                  | 36 |
| 基準4 学修成果.....           | 17 | 8-28 財務基盤.....               | 37 |
| 4-13 就職率.....           | 18 | 8-29 予算・収支計画.....            | 38 |
| 4-14 資格・免許の取得率.....     | 19 | 8-30 監査.....                 | 39 |
| 4-15 卒業生の社会的評価.....     | 20 | 8-31 財務情報の公開.....            | 40 |

|                              |           |
|------------------------------|-----------|
| <b>基準 9 法令等の遵守</b> .....     | <b>41</b> |
| 9-32 関係法令、設置基準等の遵守.....      | 42        |
| 9-33 個人情報保護.....             | 43        |
| 9-34 学校評価.....               | 44        |
| 9-35 教育情報の公開.....            | 45        |
| <b>基準 10 社会貢献・地域貢献</b> ..... | <b>46</b> |
| 10-36 社会貢献・地域貢献.....         | 47        |
| 10-37 ボランティア活動.....          | 48        |

## 教育目標と本年度の重点目標の評価

| 学校の教育理念・目標   | 平成26年度重点目標   | 重点目標・計画の達成状況   | 課題と解決方策  |
|--|--|--|--|
| <p>教育理念：「隣人愛」～自分を愛するよう<br/>にあなたの隣人を愛しなさい～</p> <p>「隣人愛」とは、苦しみを持つ人<br/>に対して、その人と自分との過去の関わり<br/>や、国籍、思想の違いを超えて、その<br/>人の必要に応える行為を行おうとする<br/>ことです。相手を受け入れ、自分を<br/>愛するように、他者を愛することで、<br/>自らが苦しみを持つ人にとっての「隣<br/>人」になろうとする愛を持ち、心から<br/>の奉仕ができる人間を育てたいという<br/>願いを込めて、この言葉を教育理念と<br/>して掲げています。</p> <p>校訓：「自信と謙遜」～オンリーワン。<br/>世界中で自分という存在はただ一人<br/>であって、かけがえのない命なのです～</p> <p>真に自分に自信がある人は、他人に<br/>対し寛容となり、相手の立場を受容し<br/>譲ることもでき、謙遜の特を持って世<br/>の光として輝き、奉仕に徹することが<br/>可能となります。 学生の皆さんは、<br/>「自分という存在はただ一人」であっ<br/>て、それほどかけがえのない生命を<br/>この世に授けられているとの認識を持<br/>って、学びを通じて成長して貰いたい<br/>との期待が込められている校訓です。</p> | <p>1 平成26年（2014年）4月<br/>姉妹校統合により、教職員が融合<br/>し、協力して業務遂行が可能である<br/>状況をつくる。</p> <p>2 福祉と医療に関する専門知識<br/>を習得し、健康で明るい社会を創造<br/>する人材の育成と、日本の大学等に<br/>入学を希望する外国人留学生に対<br/>して、日本語教育及び文化等の教育<br/>を行い、高等教育を受けるに必要な<br/>日本語力を養う。</p> <p>ついては、国家資格取得100%を<br/>目指すとともに、留学生には中国人<br/>N2合格、ベトナム人N3全員合格<br/>を目指す。</p> | <p>1 全教職員が最大限の努力をして<br/>いる。理念的に協力体制を築こうとす<br/>る努力は旺盛だが、「学生が主役」の<br/>旗印が学生の学力向上に直結してい<br/>ない。</p> <p>2 学校が学ぶ環境として最適条件<br/>を有しているという自覚を、教職員・<br/>学生ともに持ってきた。</p> <p>鍼灸学科、口腔保健学科ともに国家<br/>資格取得100%であり、柔整学科も<br/>全国平均より上位の合格率を達成し<br/>た。日本語学科は、N1、N2、N3<br/>合格者を増加させた。</p> | <p>1 学生に対する教育成果を最大限<br/>大きくすると言う理解は揺るぎない<br/>ものとなった。学科、学生部、各種委<br/>員会の活動を結びつける方向性は確<br/>立されてきた。</p> <p>人事異動も大きくないので、統合に<br/>よる融合は進むものと期待している。</p> <p>2 職業教育、日本語教育は「欠席な<br/>く学習するのが当たり前」であり、遅<br/>刻・早退のない環境を維持する。その<br/>為に、教職員が「時間を大切にする」<br/>意識を強く持ち、行動の変容を図る。</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 1 教育理念・目的・育成人材像

| 大項目  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）  |
|--|---|
| <p>本校は、平成5年（1993年）IGL健康福祉専門学校を創設して、介護福祉士の養成を始めた。</p> <p>平成13年（2001年）IGL医療専門学校を並び設け、はり師・きゅう師、柔道整復師の養成を始めた。平成19年（2007年）、IGL医療専門学校に歯科衛生士養成を行う口腔保健学科を設けた。</p> <p>平成21年（2009年）10月、IGL健康福祉専門学校に日本語学科を併設した。</p> <p>近年、定員割れが続き、将来的に少子化傾向が予想されることを背景に、平成26年（2014年）姉妹校が統合した。</p> <p>介護福祉学科、日本語学科のIGL健康福祉専門学校と、医療系の鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科のIGL医療専門学校は、別々の道を歩んできたので、それぞれ固有の性格を有している。固有の性格を生かし、その良さを発揮させながら統合するためには、困難な状況が生ずる事が予想された。校長のリーダーシップの下、教職員が「隣人愛」の精神を体現して、活力ある新たな学校を創造する課題に直面している。</p> | <p>IGLグループは、45年前に幼稚園を開園した。そして、老人福祉に事業を拡大して、人材育成事業として専門学校が設立された。</p> <p>IGL健康福祉専門学校に保育社会福祉学科が併設された時期もあり、時代の移り変わりの中で、姉妹校が定員割れの傾向を続けた。</p> <p>両校は、統合を契機として「学生が主役」を旗印として新たな学校として生まれ変わろうとしている。</p> <p>教職員は、それぞれの職責に立ち向かう姿勢に多少の違いはあるが、学生に正面から教育指導に当たっている。学生の国家資格取得、就職・進学等の状況も好転している。学生の学習成果が教職員の「隣人愛」実践の証であるので、統合初年度は発展の礎を固めつつあると考える。</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 1-1 理念・目的・育成人材像

| 小項目                                    | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                                 | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等                                 |
|--|-------|---|---|---|---|
| 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか            | 4     | 理念・目的・育成人材像については明確に定めている。                   | 学則・校訓等により学校の目標を明確にしている。<br>教職員に事業計画を配布し、認識を共有している。          | 特になし。   | 学則<br>学校 HP<br>学生便覧<br>学校案内パンフレット<br>事業計画 |
| 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか | 4     | 国家資格取得を目指す職業教育である。学生指導方針を明確にし、各学科で指導を行っている。 | 業界等の協力による校外実習を実施している。<br>教育課程編成委員会で業界等のニーズを取組みシラバスに組み込んでいる。 | 特になし。   | 学生便覧<br>シラバス                              |
| 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか       | 3     | 学生実態を把握して、医療・福祉の実践力を養う教育課程を組む。              | 各学科で独自の教育内容を教材化し、シラバスに組み込む。<br>特色ある教育活動を学生募集に生かす。           | 業界等のニーズに即応した教育目標をたてる。                             | シラバス                                      |
| 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか          | 3     | 中期計画（3年間）を各学科が立て、学校関係者評価委員会の意見を活用する。        | 本年度前半に、各学科が中期計画（3年間）を立てた。如何に中期計画が日常教育活動に生かされているか、検証する。      | 各学科の中期計画が日常教育活動に活かされているかを検証するために、来年度事業計画策定作業を進める。 | 事業計画<br>中期計画                              |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                                   |
|---|--|
| 学校法人 I G L 学園永見憲吾理事長は、46年前から教育理念「隣人愛」を掲げ、I G L 健康福祉専門学校設立以来校訓「自信と謙遜」を掲げてきた。普遍的に生きる知恵を学校教育を通じて身に付けてくれることを願う。 | 学校法人 I G L 学園理事長永見憲吾著『幸せレッスン』を教材にして、人間の幸せづくりについて考える。 |

最終更新日付

2015年5月24日

記載責任者

野村 敏之

## 基準 2 学校運営

| 大項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|---|--|
| <p>点検結果</p> <p>1 運営方針<br/>学校法人 I G L 学園の経営方針に基づき、姉妹校が統合した。定員割れを続けてきた I G L 学園は統合を契機として、再活性化を図る。学則に定めた学校の目的を達成するために、校長は中期計画を作成する。まずは、「事業計画」を土台として中期計画（3年）を作成し、初年度の計画実現を目指す。</p> <p>2 事業計画<br/>学則に定めた学校目的の実現のため、校長は理事会の承認を得て、学校の毎年度の「事業計画」を策定している。<br/>統合により組織が拡大したので、教務局・事務局とした。教務局には教務部と学生部があり、事務局には事務部、広報部、留学生部がある。各学科、事務局各部署は、それぞれ事業計画の中に教育計画、組織管理の計画を持ち、進捗を管理している。</p> <p>3 運営組織<br/>校務運営組織図と各種委員会規程による。統合によって構成員が増大したので、理事長・校長・局長の組織的運用が必要である。</p> <p>4 人事・給与制度<br/>教職員の労働意欲喚起の為に、信賞必罰の人事考課のためにも、公平公正さを担保した人事・給与制度が必要である。</p> <p>5 意思決定システム<br/>校務運営組織と委員会により、教育目標実現のために、着実な歩みをしている。</p> <p>6 情報システム<br/>○インターネット活用と P C 個人配布<br/>○学生管理システム「インフォクリッパー」への移行と運営</p> | <p>事業計画 平成 26 年 2 月 22 日<br/>学則 平成 26 年 4 月 1 日<br/>中期計画 平成 26 年 8 月 20 日</p> <p>事業計画 平成 26 年 2 月 22 日<br/>学則 平成 26 年 4 月 1 日<br/>校務運営組織図</p> <p>校務運営組織図、各種委員会規程</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 2-2 運営方針

| 小項目                      | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                          | イ 現状・具体的な取組等                 | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等          |
|--------------------------|-------|--------------------------------------|------------------------------|-----------|--------------------|
| 2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか | 4     | 理念はキリスト教精神の根幹であるが、他宗教でも大切にしている概念である。 | 運営方針は毎年事業計画に文書化して教職員に周知している。 | 特になし。     | 学則<br>事業計画<br>中期計画 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                               |
|---|--|
| I G Lグループの基本概念、学校法人の教育理念は一貫している。学生・教職員の幸せ作りのために、邁進する。 | キリスト教の愛、仏教の慈悲、神道の「はらから」と共通する哲学であり、全世界が求める理想郷である。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|



## 2-3 事業計画

| 小項目                          | ※点検<br>進捗 | ア 考え方・方針・目標                          | イ 現状・具体的な取組等                      | ウ 課題と解決方向                        | エ イの参照資料等    |
|------------------------------|-----------|--------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--------------|
| 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか | 4         | 単年度の事業計画を定めている。3年間の中期計画の初年度と位置づけている。 | 中期計画、事業計画を校務運営会議で作成し法人本部の承認を得ている。 | 事業計画の実施において学科ごとに進捗状況に差異がある場合がある。 | 事業計画<br>中期計画 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                |
|---|-----------------------------------|
| 姉妹校2校の統合前の準備協議は不十分であったが、3年間の中期計画、単年度事業計画を定めた。 | 統合という新たな条件の下で、新たな学校づくりに全員が関わっている。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 2-4 運営組織

| 小項目                       | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標              | イ 現状・具体的な取組等                                   | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等                        |
|---------------------------|-------|--------------------------|--|-----------|----------------------------------|
| 2-4-1 設置法人の組織運営を適切に行っているか | 3     | 寄付行為に基づき適正に行っている。        | 理事会、評議員会は寄付行為に基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録も作成されている。 | 特になし。     | 校務運営組織図<br>理事・評議員・監事名簿<br>法人寄付行為 |
| 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか  | 3     | 学校運営を円滑に遂行するため組織を整備している。 | 学校運営に必要な事務・教務組織は体系化し運営組織を整備している。               | 特になし。     | 委員会等規程集（目次）                      |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                          |
|---|---|
| 理事長の下、ディレクター、学校法人事務長、多機能分野に活躍している秘書室長が学校を支えており、本部組織、校務運営組織がその機能を発揮している。 | 「人は城、人は石垣」のとおり、重要人物が柔軟な適合力を発揮しながら、相互調整している。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 2-5 人事・給与制度

| 小項目                       | ※点検<br>進捗 | ア 考え方・方針・目標           | イ 現状・具体的な取組等                                    | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等 |
|---------------------------|-----------|-----------------------|---|--|-----------|
| 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか | 2         | 学園として人事考課制度を整備すべきである。 | 教職員の勤務評価をおこなっていない。授業アンケートは現在授業改善のツールとして機能させている。 | 勤務評価と給与・人事を連動させ、また、その評価に公平性を保たせれば、証拠に基づく教職員管理が可能となる。 | 教員名簿      |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 教育理念実現のために、適切な人材が集まっているが、勤務評価と人事・給与制度が連動していない。現在の給与待遇が適切か判断するためにも、I G Lが将来持続発展するためにも、人事・給与制度は整備される必要がある。 | 教職員の勤務評価を行っていない。   |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 2-6 意思決定システム

| 小項目                    | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標            | イ 現状・具体的な取組等               | ウ 課題と解決方向            | エ イの参照資料等              |
|------------------------|-------|------------------------|----------------------------|----------------------|------------------------|
| 2-6-1 意思決定システムを整備しているか | 4     | 校務運営会議を中心に委員会等を整備している。 | 校務運営組織図、各種委員会規程に則って運営している。 | 権限を明文化することが必要と考えている。 | 校務運営組織図<br>委員会等規程集（目次） |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括                 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|-----------------------|--------------------|
| 校務運営組織によって意思決定を行っている。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 2-7 情報システム

| 小項目                             | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                  | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向                      | エ イの参照資料等         |
|---------------------------------|-------|------------------------------|--|--------------------------------|-------------------|
| 2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか | 3     | 情報システム化により業務の効率化を図りたいと考えている。 | 現行の機種を更新して新しく学生管理システムを導入し、学生業務を稼働し学生指導にも活用できるようになっている。 | メンテナンス及びセキュリティにおける体制の確立も必要である。 | 学校法人 IGL 学園情報公開規程 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 現状では複数のシステムで学生データを管理しているため、安全に業務の効率化を図られているとはいえない。今後、一元的にデータを管理するために学生管理システムを導入する。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 3 教育活動

| 大項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|--|--|
| <p>介護福祉学科、鍼灸学科、口腔保健学科は、それぞれ平成24年度（2012年度）の活動実績を基盤として、平成25年度（2013年度）「職業実践専門課程」文部科学大臣認定を受けた。柔整学科は、本年度の活動実績を基にして、平成27年度（2015年度）申請を行う予定である。</p> <p>介護福祉学科、鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科はともに厚生労働省指定教育課程による国家資格取得を目指す学科である。国家資格試験合格100%を実現する責任がある。</p> <p>さらに、国家資格を土台として利用者さん、患者さんから喜ばれる介護・医療サービスを提供する専門職業人材養成施設である。</p> <p>卓越した又は熟達した実務の知識・経験に基づく高度の専門的かつ実践的な能力を育成するために、「教育課程編成委員会」を設置した。業界等のご意見をいただき、教育課程を編成し、シラバスを作成している。</p> <p>学生が修業年限に応じた学習成果を上げているか、教員は、知識・技術の伝達に留まらず、学生の基本的な生活習慣が確立されて勉学の実が挙がっているかを確認する為に、授業アンケートを実施する。その結果を活用して指導力改善に努める。</p> <p>学生の学習成果獲得のために、学校は組織的に動く。教務局、事務局が機能し、自己点検・評価、学校関係者評価を行う。</p> <p>上記のことは概ね方向性として実行されており、第三者評価（私立専門学校等評価研究機構の様式使用）に耐え得る学校になることを目指す。</p> <p>教育計画の遂行、学習成果の改善のために、教員の確保に努める。</p> | <p>「職業実践専門課程」文部科学大臣認定学科（平成26年3月31日）<br/>介護福祉学科、鍼灸学科、口腔保健学科</p> <p>第1回教育課程編成委員会（平成26年9月14日、日曜日）<br/>第2回教育課程編成委員会（平成26年11月16日、日曜日）</p> <p>授業アンケート実施時期<br/>前期……平成26年9月<br/>後期……平成27年2月～3月</p> <p>学校関係者評価実施時期<br/>第1回……平成26年9月14日、日曜日<br/>第2回……平成26年11月16日、日曜日</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 3-8 目標の設定

| 小項目                                | ※点検<br>進捗 | ア 考え方・方針・目標                               | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等                |
|------------------------------------|-----------|---|---|--|--------------------------|
| 3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか | 4         | 理念に沿った教育の実施方針を定めている。                      | 教育課程の編成は学科会議、教務委員会で定め学生便覧に明記している。                     | 特になし。  | シラバス<br>事業計画<br>成績通知表の送付 |
| 3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか | 4         | 理念に沿った学科毎の教育目標の達成に向けた教育課程を編成することを目的としている。 | 国家試験合格が必要な学科はその水準にあった教育到達レベルを改定して指導・支援を実施する体制を確立している。 | 留年という事実があるので、学科会として指導状況を把握して、入学時から卒業時までの学習方法を確認するなどの具体的指導が課題である。 | 資格取得状況一覧                 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                            |
|---|---|
| 理念・校訓に沿った教育課程の編成方針、実施方針、学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確に示している。 | 運用段階における課題があるので、入学時からの学習方法を伝達するなど丁寧な指導を行っていく。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 3-9 教育方法・評価等

| 小項目                           | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等                                 | ウ 課題と解決方向                            | エ イの参照資料等                     |
|-------------------------------|-------|--|--|--------------------------------------|-------------------------------|
| 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか | 4     | 厚生労働省指定基準に基づいて教育課程を編成している。本校独自の教育内容を盛り込む。            | 厚生労働省指定基準に基づいて教育課程を編成している。本校独自の教育内容を盛り込んでいる。 | 本校独自の教育内容を盛り込み、教育成果を高める。             | シラバス<br>教育課程表(カリキュラム表)        |
| 3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか  | 4     | 業界等関係者に参加をしていただく教育課程編成委員会を実施して、外部意見を反映させる。           | 現場実習、臨床実習で現場の声を聴くとともに、業界関係者の声を聴いて、教育課程を編成する。 | 普段の授業に業界等の求める内容を教材化する。               | シラバス<br>教育課程編成委員会での提言に対する取り組み |
| 3-9-3 キャリア教育を実施しているか          | 2     | 専門知識・技術・技能に加えて、社会人に必要な基礎力を修得するためにキャリア教育が重要であると考えている。 | 通常カリキュラムに加え、コミュニケーションに特化した特別講義を実施している。       | 現在の授業のみでは不十分でありキャリア教育の体系化を図ることを検討する。 | シラバス                          |
| 3-9-4 授業評価を実施しているか            | 2     | 授業改善のためには、教える立場の視点のみでは十分でなく、学習者の視点での評価が必要であると考えている。  | 授業アンケートを実施している。集計結果の活用は教員個々に任している。           | 授業アンケートの実施方法、活用方法について教務委員会で検討している。   |                               |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)  |
|---|---|
| 授業は、厚生労働省指定基準準拠教育課程に基づいて運営されている。枠組みは安定しているが、独自性を盛り込むことは可能なので、教育効果を高めるために工夫していく。キャリア教育・授業評価は組織的に実施されているとは言い難い。 | 学科会の独自性が強く、透明度が高くない。統合初年度であるので、「学生が主役」を学科毎に実現する教育活動を展開していく。 |

最終更新日付

2015年5月24日

記載責任者

野村 敏之



## 3-10 成績評価・単位認定等

| 小項目                                | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等                             | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|------------------------------------|-------|--|--|-----------|-----------|
| 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか | 3     | 学則等に継起して実施している。                                      | 成績評価・単位認定基準は学生便覧に明示し、教員は基準に従って成績評価をしている。 | 特になし。     | 学生便覧      |
| 3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか    | 3     | 学会等の研究発表会は学生の学びの集大成と考えており、積極的に外部の学会や研究発表会に参加する方針である。 | 学科教員、教務局長が指導・引率し学外での学会発表等を積極的に行っている。     | 特になし。     |           |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                            |
|---|---|
| 成績評価、単位認定等は学校教育の総決算であり、教育指導力の結果である。修業年限に応じた学習課題、最終学習到達目標として把握されるものであるから、透明性を高めると同時に、その基準は公示されなければならない。改善した。 | 統合を機会に、学則に成績評価、単位認定基準等を明記して、平成 26 年度入学生に公示した。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 3-11 資格・免許の取得の指導体制

| 小項目                                   | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                           | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|--|-----------|-----------|
| 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか | 4     | 厚生労働省指定基準として明確に位置づけられている。             | 取得目的とする資格は学生便覧に明示し、国家試験対策授業も行っている。                       | 特になし。     | 学生便覧      |
| 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか               | 4     | 学科によって異なるが、特講・補講という名称で、教育課程内外で実施している。 | 資格合格プログラムを実施し国家試験対策体制をとっている。H26年度、全学科で全国平均を上回る合格率となっている。 | 特になし。     |           |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                            |
|--|---|
| 職業教育の学校であり、厚生労働省の国家資格取得を目指す学校であり、日本語能力検定合格を目指す学校である。教育課程上の位置付けは明確だが、教育指導の質にはバラツキがあり、指導力向上は教務部が組織的に行う体制を整えつつある。 | 学科の中期計画、自己申告書により、指導力向上を目指している。教務部が研修企画を進めている。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 3-12 教員・教員組織

| 小項目                        | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向                   | エ イの参照資料等    |
|----------------------------|-------|--|---|-----------------------------|--------------|
| 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか | 4     | 厚生労働省指定教育課程に対応した、資格・要件を備えた教員を確保する。日本語教育振興協会の基準を満たす教員を確保する。 | 厚生労働省指定教育課程に対応した、資格・要件を備えた教員を確保している。日本語教育振興協会の基準を満たす教員を確保している。  | 基準を越えた良質の教員の採用と、内部研修を進めていく。 | 中期計画<br>教員名簿 |
| 3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか  | 3     | 外部での研修及び学内研修を実施している。                                       | 資質向上を目的とした外部研修に加え、コミュニケーション能力や社会性を身につけるための新任研修、すでに獲得している専門分野の知識技術に加え、広く社会人としてのヒューマンスキルやコミュニケーション能力、他分野との協働体制の構築等、学校教育全体にリーダーとして貢献できるためのリーダー育成研修を計画実施している。 | 特になし。                       | 研修等の実績       |
| 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか     | 3     | 校務運営組織図が機能するよう組織運営していく。                                    | 組織図の通りに機能しない部分は、課題を把握しながら業務に支障をきたさない対応を続ける。   | 特になし。                       | 校務運営組織図      |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                      |
|---|---|
| 厚生労働省指定国家資格取得者養成施設、日本語教育振興協会指定校であり、資格・要件を整えている。資質向上には学校を上げて組織的に対応していくので、3年間の中期計画実現を目指す。 | 平成26年度 中期計画（3年間）策定<br>平成27年度事業計画に反映させる。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 4 学修成果

| 大項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|--|--|
| <p>本校は、福祉と医療に関する専門知識を習得し、健康で明るい社会を創造する人材の育成と、日本の大学等に進学を希望する外国人留学生に対して、日本語教育及び日本文化等の教育を行い、高等教育を受けるに必要な日本語力を養う教育機関である。</p> <p>したがって、それぞれの国家資格・日本語能力検定等を取得して、実技を大切に熟練した職人技を身に付けることを目指す。国家資格は 100%合格、就職希望者の 100%就業、全員希望校への進学を目指す。</p> <p>入学してきた学生が、多様な条件を抱えているが故にその困難条件を克服して、実力ある職業人・卒業生となるように、教職員が協力して指導する。</p> <p>本校の歴史は、介護福祉学科が 22 期生、鍼灸学科と柔整学科が 14 期生、口腔保健学科 8 期生、日本語学科（半年毎の入学）11 期生を迎えている。介護福祉士、鍼灸師、柔道整復師、歯科衛生士は施設・病院、治療院、歯科医院で活躍している。</p> <p>同窓会について、昨年度までは I G L 健康福祉専門学校同窓会、同医療専門学校同窓会として独自に活動してきた。本年度は統合して、卒業生の支援をして頂く。個々人の力量によって世渡りをしていくが、同業者としての情報交換・研修を通じて資質向上に努めようとされている。</p> <p>学生支援システム「インフォクリッパー」によって、入学前情報・学習成績・卒業後の進路先情報の一元管理を行う予定である。「インフォクリッパー」の機能を発揮させて、卒業生支援を行えると期待する。</p> <p>※本来は、分野別評価が前提であるので、学科毎の学修成果を作成する必要がある。</p> | <p>就職率（平成 27 年 5 月 1 日現在）<br/>介護福祉学科・・・54 / 54（100%）</p> <p>以下の学科は、国家試験合格発表後に就職活動をする傾向がある。<br/>鍼灸学科……………16 / 16（100%）<br/>柔整学科……………16 / 16（100%）<br/>口腔保健学科………30 / 30（100%）</p> <p>日本語学科<br/>就職者 3名、<br/>進学 57名……大学 8名、専門学校 49名、うち I G L 国際 22名<br/>退学 2名、<br/>死亡 1名</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 4-13 就職率

| 小項目                   | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                     | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向                   | エ イの参照資料等           |
|-----------------------|-------|---------------------------------|---|-----------------------------|---------------------|
| 4-13-1 就職率の向上が図られているか | 3     | 就職委員会を中心に就職担当者が積極的に取り組むようにしている。 | 就職担当が学生の就職活動を個人別に把握し適切な就職支援・指導を行うと共に、一部学科では外部企業を招き、学校独自の就職懇談会を実施している。全学科（4学科）で希望者は100%就職している。 | キャリア教育導入により、学校全体の職業意識向上を図る。 | 就職支援業務予定表<br>就職状況一覧 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 国家資格取得⇒就職が全体的な流れ<br>介護福祉学科……最終学年全体を通して決定していく。<br>鍼灸学科……………最終学年終盤、卒業式前後に決定していく。<br>柔整学科……………最終学年終盤、卒業式前後に決定していく。<br>口腔保健学科……最終学年終盤、卒業式前後に決定していく。<br>職業意識について、職業実践専門課程認定校としては、十分な教育をする必要がある。理論的にキャリア教育を把握して教材作りをするとともに、カウンセリング機能を果たすために、キャリアカウンセラーを養成する。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 4-14 資格・免許の取得率

| 小項目                        | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                       | イ 現状・具体的な取組等             | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等 |
|----------------------------|-------|-----------------------------------|--------------------------|--|-----------|
| 4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか | 3     | 資格・検定取得について、学生全員が合格するようにサポートしている。 | 全員が合格するよう個別指導を放課後実施している。 | 入学する学生の状況も年々変化している。学生個々の状況から入学前から教育プログラムの構築が必要である。 | 資格取得状況一覧  |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                                     |
|--|--|
| 職業教育学校としては、国家資格全員取得が目標である。日本語能力試験(JLPT)は、中国人N2，ベトナム人N3以上合格が目標である。入学時から目標達成のために全力を尽くすのみ。達成できなかつたら、学校の存在価値が問われる。 | 年度初めから試験日・検定日に向けて取り組んだ。日本語学科では、学生の望む検定合格を納めることができなかった。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 4-15 卒業生の社会的評価

| 小項目                      | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等                 | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等            |
|--------------------------|-------|--|------------------------------|--|----------------------|
| 4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか | 2     | 卒業生の活躍により業界等から学校に対する評価が上がり、在校生の就職につながっていくことが一番の社会的評価だと考えている。 | 実習担当者が実習巡回先で卒業生の状況の把握に努めている。 | 卒業生の動向を十分に把握できているとは言えない。同窓会と連携し情報を把握することを検討している。 | 同窓会 HP<br>親子スキンタッチ教室 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                                   |
|--|--|
| <p>国家資格取得者が高く評価されるよう、業界事情の把握に努めるとともに、厚生労働省、日本語教育振興協会と連携して社会的地位向上に努める。</p> <p>同窓会と連携して、卒業生の活躍実態を把握し、学生に報告する。在校生の職業に対する誇りを高め、学習意欲向上に努める。</p> | <p>データ管理されてこなかった。学生管理システムを導入して、卒業後の進路情報管理を一元化する。</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準5 学生支援

| 大項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 5-16 就職・進学等の進路<br>介護福祉学科・・・求人票の掲示、アルバイト求人票の掲示<br>鍼灸学科、柔整学科・・・就職懇談会<br>口腔保健学科・・・求人票の掲示、アルバイト求人票の掲示               |                    |
| 5-17 中途退学への対応<br>入学オリエンテーション、各学科毎個別面接指導<br>カウンセリング機能の向上   |                    |
| 5-18 学生相談<br>学科会、担任が個別面接している。<br>スクールカウンセリング機能は整備できていない。  |                    |
| 5-19 学生生活<br>経済的側面・・・奨学金制度活用に便宜を図る。<br>健康管理・・・定期健康診断、個別面談。<br>学生寮・・・学生寮の管理と学校指定コーポ支援。<br>課外活動・・・学修と両立する活動を支援する。 |                    |
| 5-20 保護者との連携<br>国家資格取得と就業・開業の厳しさを保護者に理解していただく。<br>学生の学習支援・協力態勢を整える。<br>進級・留年等の仕組みを理解していただき、未然防止に努める。            |                    |
| 5-21 卒業生・社会人への支援体制<br>同窓会との連携。同窓会主催の各種研修会開催支援。<br>鍼灸院・接骨院との連携   |                    |

最終更新日付

2015年5月24日

記載責任者

野村 敏之



## 5-16 就職等進路

| 小項目                            | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                      | イ 現状・具体的な取組等         | ウ 課題と解決方向                     | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------|-------|----------------------------------|----------------------|-------------------------------|-----------|
| 5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか | 2     | 学生に一番接している担任が先頭に立って就職等進路を支援している。 | 就職委員会と担任が連携して対応している。 | 積極性に欠ける学生の増加と個別就職相談の充実が必要である。 | 就職状況一覧    |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|--|--|
| <p>出口戦略として就職・進学は重要である。日常の学修成果として、就職活動・進学受験対策が位置づけられる。したがって、入学から卒業までのキャリア教育が構築されなければならない。キャリア教育の理論的整理のためにも、キャリアカウンセラーを養成する。</p> | <p>各学科の実情に応じて行われており、教育課程編成委員会のご意見を生かして業界のニーズを反映する。キャリアカウンセラーを養成する。</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 5-17 中途退学への対応

| 小項目                   | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                                 | イ 現状・具体的な取組等                                    | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等 |
|-----------------------|-------|---|---|--|-----------|
| 5-17-1 退学率の低減が図られているか | 2     | 学則の理解を徹底させ、円滑に学修成果が生み出され、退学者が出ないよう指導力向上を図る。 | 個々により退学要因は様々である。問題を早期に把握し、必要に応じて保護者と連携して対応している。 | 学校・取組みの姿勢は学生の様子に顕著に表れる。教職員がそこを見逃さず感知し学校側から相談を引き出す努力が必要不可欠であると考え。 | 退学状況一覧    |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                     |
|--|--|
| <p>経済的理由からの退学は、奨学金制度の活用で対応する。</p> <p>修学目的を確認し、学習意欲向上によって円滑な進級・卒業、進路実現を目指す。指導力向上については、次のような事を含む。①入学時オリエンテーションの工夫 ②個人面談の実施 ③カウンセラーによる相談体制 ④カウンセラーによる相談困難ケースの事例研究・教職員研修会の実施 ⑤担任・カウンセラーの連携強化 ⑥学生情報の共有化（学生カルテシステム） ⑦早期の検定合格によるモチベーション強化</p> <p>クラス担任は、出席簿の確認や授業科目担当教員、クラスメイトからの情報により、日常の出欠席、遅刻の確認と学校生活、授業態度等の確認を、定期的及び必要に応じて随時行い、出席状況の思わしくない学生の状況を把握し、退学の兆候やサインを見逃さないようにする。</p> | <p>入学時から学生へのガイダンス機能が発揮されているとは言い難い。</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 5-18 学生相談

| 小項目                        | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向                              | エ イの参照資料等    |
|----------------------------|-------|--|---|--|--------------|
| 5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか  | 3     | 担任が日常生活相談機能を果たすことが基本。学生生活委員会が支援する。全学的な学生相談機能が必要と考える。     | 担任および学科で十分に対応出来ない事例には、中級教育カウンセラーでもある教務局長がカウンセリングを行っている。 | 引き続き担任と学科会が学生相談を行うとともに、全学的学生相談機能を構築する。 |              |
| 5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか | 4     | 留学生生活指導委員会が全体的な把握を行う。異文化社会での生活を支援するためのネイティブ担当者を置くのが望ましい。 | 定期的に留学生学生生活委員会を定期的に開催している。留学生部が日常生活支援を行っている。            | 今後とも留学生部の日常業務と留学生生活指導委員会機能を継続発揮する。     | 留学生生活指導委員会規程 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 担任が学生相談を日常的に行い、学修成果を高める。全学的な課題は、学生生活委員会が扱う。<br>留学生に対しては、留学生部が日常生活支援を行い、定期的に留学生生活指導委員会を開いている。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 5-19 学生生活

| 小項目                              | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等                                    | ウ 課題と解決方向                                       | エ イの参照資料等 |
|----------------------------------|-------|---|---|---|-----------|
| 5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか  | 3     | 経済的困難の学生は年々増加の傾向にある。相談にきた学生については、個々の状況に応じて事務部が対応している。 | 公的奨学金機構の案内、学費の延納分納の相談等の対応を事務部で行っている。            | 経済的に厳しい学生に本校独自の奨学金制度を創設することができないか法人本部と相談していきたい。 | 学生募集要項    |
| 5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか      | 3     | 教育機関として、健康管理を行う体制整備は必要不可欠であると考えている。                   | 日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施している。                  | 特になし。   | 行事予定      |
| 5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか | 3     | 本校所有の学生寮と、学校指定コーポを提供して生活環境支援を行う。                      | 学生生活委員会、学科会、留学生部が支援体制を構築している。                   | 生活マナー向上等、支援内容の充実を図り、日本人、留学生の生活力向上に努める。          | 学生便覧      |
| 5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか      | 2     | 多様・多忙な学生生活に潤いを与える課外活動を充実させる事が望ましい。                    | 濃密な教育課程と経済的理由から課外活動の時間的余裕が乏しい。可能な限りの課外活動を支援したい。 | 学生の生活実態に合わせた課外活動の充実を図る。                         |           |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 経済的に余裕のない学生が、健康で豊かな学生生活が送れるように支援することが課題である。学生生活委員会が学生生活実態を把握して、学修成果が出るよう支援体制を整える。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 5-20 保護者との連携

| 小項目                      | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                       | イ 現状・具体的な取組等                                  | ウ 課題と解決方向                                   | エ イの参照資料等 |
|--------------------------|-------|-----------------------------------|---|---|-----------|
| 5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか | 3     | 入学式から保護者の理解、協力を求め、適切な回数の成績連絡等を行う。 | 入学式から保護者の理解を求め、成績表、学修実態を報告し、授業料納入促進等も適宜行っている。 | 保護者とより連携を深め、教育にあたることができるよう、保護者面談日などを計画している。 | 成績通知表の送付  |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 高等学校卒業者とは言え、学業成績、学費納入等、保護者・保証人の理解・協力を必要とする。入学式以降卒業まで密接な保護者との連携体制を維持していく。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 5-21 卒業生・社会人

| 小項目                                       | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向                                      | エ イの参照資料等              |
|---|-------|--|--|--|------------------------|
| 5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか                  | 2     | 学生管理（支援）システムの運用と、同窓会・業界等との連携を密にして、卒業生への支援体制を整備する。          | 本年度、学生管理（支援）システム導入を進め、来年度運用を目指す。同窓会との連携を進めている。           | 学生管理（支援）システム導入<br>同窓会との日常的連携                   | 親子スキンタッチ教室             |
| 5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか | 3     | 卒業生に対して再教育を行うことは、卒業生にとっても、在校生にとっても将来展望を持ち、また安心感を持つ機会となる。   | 職業実践専門課程文部科学大臣認定校として、卒業生の再教育を行う。同窓会が中心になって、研修会を実施している。   | 教育課程編成委員会のご意見を活用して、卒業生の再教育の場を増やしていく。           | 介護実習の要綱<br>社会福祉現場実習の要綱 |
| 5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか           | 3     | 学校の教育機能を社会人に提供する事は望ましい。I G Lブランドの強化になり、引いては本校への学生募集にも貢献する。 | 里孫制度、各種ボランティア活動、鍼灸院・接骨院との連携、留学生の近隣学校との交流など多様な取り組みを試みている。 | 在校生の現場臨床実習、治療院でのニーズ把握を生かして、できる限りの社会人サービスに取り組む。 |                        |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                               |
|--|--|
| 本校の教育の質向上のためには、できるだけ多くの卒業生・社会人に向けた取り組みをするのが好ましい。I G Lのブランド力を高めるためにも、卒業生・社会人への取り組みは有効だと考える。 | 本校は同窓会組織がしっかりしており、同窓会会員だけでなく在校生をも研修会参加の形で支援している。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 6 教育環境

| 大項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|---|--|
| <p>6-2-2 施設・設備等<br/>           本校は介護福祉学科、鍼灸学科、柔整学科、口腔保健学科、日本語学科ともに、厚生労働省指定基準の教育課程に基づき、あるいは日本語教育振興協会の審査に基づく教育機関である。平成26年度（2014年度）統合を機に現在地で教育活動を行っている。校舎は14年目を迎えており、介護福祉学科・日本語学科が移り統合するために増築をした。<br/>           10年を超えた施設・設備の老朽化、破損・紛失等がないか、点検の時期を迎えようとしている。</p> <p>6-2-3 学外実習・インターンシップ等<br/>           介護福祉学科、口腔保健学科はそれぞれ学外で介護実習、臨床実習を行っている。鍼灸学科、柔整学科は校内の附属鍼灸院・接骨院で学生指導にあたりるとともに、地域の治療院訪問等で現場実習を進めている。</p> <p>6-2-4 防災・安全管理<br/>           防災に対するハード面は整備されている。防火訓練・災害避難訓練等について、消防署のご協力を得て実施してきた。</p> | <p>本年（平成26年）8月20日、広島市域集中豪雨による建物被害があっただけでなく、休校措置の実施等緊急時における学生対応を見直した。</p> |

最終更新日付

2015年5月24日

記載責任者

野村 敏之

## 6-22 施設・設備等

| 小項目                                      | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向                      | エ イの参照資料等 |
|--|-------|---|--|--------------------------------|-----------|
| 6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか | 3     | 業界等のニーズに応える教育を行うために、利用者・患者に最新の介護・治療が行える施設・設備・教育用具等を整える。 | 旧来の鍼灸・柔整学科は14年、口腔保健学科は8年を経過している。技術進歩による最新設備と言いつても難しいものもある。 | 事業計画・予算計画に基づいて年度ごとに計画的に更新していく。 | 事業計画      |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                               |
|--|--|
| 鍼灸学科、柔整学科は14年経過した。口腔保健学科は8年を経過した。設備の老朽化に対する計画的な更新を行っていく。<br>介護福祉学科、日本語学科は、移転統合に伴い厚生労働省、日本語教育振興協会の審査を受けた。 | 厚生労働省実地検査・・・平成26年2月19日<br>日本語教育振興協会・・・平成26年2月20日 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|



## 6-23 学外実習・インターンシップ等

| 小項目                                     | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等           |
|---|-------|---|---|---|---------------------|
| 6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか | 4     | 職業実践専門課程認定学科及び柔整学科ともに現場実習を充実させる。日本語学科は日本文化に接する機会を増やす。 | 介護福祉学科……介護実習、鍼灸学科……学校内外の鍼灸院実習、柔整学科……学校内外の接骨院、クリニック現場実習、口腔保健学科……臨床実習・臨地実習、日本語学科……こども科学館訪問等。海外短期留学は、介護福祉学科（ハワイ）、鍼灸学科・柔整学科（上海） | 厚生労働省基準による現場実習を行った結果、記録・コミュニケーション能力をさらに高める指導力向上が課題である。海外短期研修の参加者が少ない。 | 行事予定<br>実習施設訪問指導報告書 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）  |
|--|---|
| 業界のニーズを把握する機会は、教育課程の中に備わっている。業界のニーズに応えるための基礎的な記録能力（まとめ力）、コミュニケーション能力を高める必要がある。<br>海外短期留学は、介護福祉学科（ハワイ）、鍼灸学科・柔整学科（上海）が行っている。 | 厚生労働省基準による現場実習を行った結果、記録・コミュニケーション能力をさらに高める指導力向上が課題である。海外短期研修の参加者が少ない。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 6-24 防災・安全管理

| 小項目                                | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                                       | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等                           |
|------------------------------------|-------|---|--|---|-------------------------------------|
| 6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか   | 2     | 消防署の指導の下で、自主防災組織を編成し、火災・防災避難訓練を定期的実施する。           | 統合に伴い、学校内の教室配置、学生の動線の変化を讀んで、自主防災組織を整える必要がある。避難訓練を予定していたが、集中豪雨の影響で、訓練が延期になった。 | 校舎配置を確認し、火災時、地震時等の避難訓練経路図を作らなければならない。                       |                                     |
| 6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか | 2     | 日頃から、学生緊急連絡網、教職員緊急連絡網を管理、配布して、緊急時に安全確認、連絡体制を維持する。 | 統合後の緊急連絡網が緊急時に活用できる状態になっていない。  | どんなに忙しくとも、緊急連絡体制を整える。<br>学生の安全確保、教職員の危機管理精神を確認して、組織の安全を整える。 | 学則<br>学生緊急連絡網（添付略）<br>教職員緊急連絡網（添付略） |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）  |
|--|---|
| 東日本大震災に続いて、本年（平成26年）8月広島市域集中豪雨による浸水、土砂災害を体験した。休校措置、学生の安全確認を優先したが、教職員緊急連絡網整備、教職員間の確認について課題を残した。予定していた防災避難訓練は、集中豪雨の後始末のため消防署が対応できず、延期になった。来年度実施する。 | 統合に伴い、学校内の教室配置、学生の動線の変化を讀んで、自主防災組織を整える必要がある。避難訓練を予定していたが、集中豪雨の影響で、訓練が延期になった。統合に伴い、学校内の教室配置、学生の動線の変化を讀んで、自主防災組織を整える必要がある。避難訓練を予定していたが、集中豪雨の影響で、訓練が延期になった。統合後の緊急連絡網が緊急時に活用できる状態になっていない。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 7 学生の募集と受け入れ

| 大項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>7-25 学生募集活動<br/>HPを入口とした募集要項請求、広告業者を通じた情報雑誌、高等学校説明会によって、中学校、高等学校に留まらず、大学・短期大学・社会人に向けて情報提供している。</p> <p>高等学校等の実情に合わせて、法令を遵守して広域に募集活動をしている。</p> <p>7-26 入学選考<br/>選考基準を明確にして、作問作業を行い、選考を行っている。</p> <p>学科によって選考データを十分に生かし切れず、学修成果を円滑に得ることができなかつた。結果として留年生を出した。</p> <p>7-27 学納金<br/>学納金は原価を下に算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議において決定し、評議員会・理事会の承認を得る。</p> <p>授業料は半期毎の納入方法を採用し、入学意思を確認する時期に納入させている。</p> |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 7-25 学生募集活動は、適正に行われているか

| 小項目                                   | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                           | イ 現状・具体的な取組等                                     | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等                    |
|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|--|---|------------------------------|
| 7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか | 3     | 高等学校に留まらず、中学校、大学・短期大学・社会人に向けて情報提供する。  | HPを入口とした募集要項請求、広告業者を通じた情報雑誌、高等学校説明会によって情報提供している。 | 定員割れが起きないように広く情報提供する。学校見学会の開催など、本校を広く開示する取り組みを計画している。 | 学校HP<br>学校案内パンフレット<br>学生募集要項 |
| 7-25-2 学生募集活動を適切、かつ、効果的にしているか         | 3     | 法令を遵守し、幅広く職業教育の有効性と、本校の優秀な指導力を広報していく。 | 高等学校等の実情に合わせて、法令を遵守して広域に募集活動をしている。               | 職業教育の意義、専門学校の実情、キャリア教育に則ったI G Lの有用性を募集活動の中で訴える。       | 学生募集要項                       |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括                      | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）  |
|----------------------------|---|
| 卒業生の進路実績、現在の教育力を自信を持って広報する | 高等学校教員は、専門学校の実情、職業教育の意義を理解していないのが実情だと受け止めている。専門学校の実情、職業教育の役割を広報し、是非本校に学生を送って欲しい、是非高校生たちは進学して欲しいと理解を求める。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 7-26 入学選考

| 小項目                                 | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                     | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等 |
|-------------------------------------|-------|---------------------------------|---|---|-----------|
| 7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか       | 4     | 入試委員会が選考基準を明確にして、選考を行う。         | 統合後、入試に関する案件を入試委員会にて検討し、よりよい入試体制となるよう整備、実行した。               | 入試選考後、振り返りを行い、改善点を明確にする。今後も改善点を見出す作業を進める。                         | 学生募集要項    |
| 7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか | 2     | 入学選考での学生実態を学科会が把握して、入学後の指導に生かす。 | 学科によって選考データを十分に生かし切れず、新入生の学修成果を円滑に得ることができなかった。結果として留年生を出した。 | 入学内定後、入学前学習課題を受けさせる。修業年限に見合う学習計画を立て、初年次教育がより充実し、留年生を出さない体制づくりを行う。 |           |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                               |
|---|--|
| 学生募集、入学選考を通じて、職業に対する意識と学習意欲を高める必要がある。選考データを学科会が丁寧に生かし、卒業までの修学を円滑に進める。 | 学科によっては単位不認定科目を多く出したので、入学選考データを活用して入学後の指導に反映させる。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 7-27 学納金

| 小項目                                   | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                              | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向                | エ イの参照資料等 |
|---------------------------------------|-------|--|---|--------------------------|-----------|
| 7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか           | 3     | 教育活動実態に合わせて、学納金を算定している。                  | 学納金は原価を下に算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議において決定し、評議員会・理事会の承認を得る。 | 毎年度、実態を把握して、算定が適切かを検証する。 | 学生募集要項    |
| 7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について適正な取扱いを行っているか | 4     | 入学辞退者について募集要項に記載し、授業料等について適正な取り扱いを行っている。 | 入学前月末まで意思を示した辞退者に対して入学金を除いた授業料を返還している。                        | 特になし。                    | 学生募集要項    |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）     |
|---|------------------------|
| 教育活動実態に合わせて、学納金を算定していく。学納金は原価を下に算定し、他校の実態と社会情勢を踏まえて検討し、校務運営会議において決定し、評議員会・理事会の承認を得る。<br>授業料は半期毎の納入方法を採用し、入学意思を確認する時期に納入させている。 | 授業料は年間2回分割納入方法を採用している。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 8 財務

| 大項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）  |
|--|---|
| <p>8-28 財務基盤<br/>平成26年度在籍者（対定員）は各学科ともに定員割れの状況であり、昨年度からの傾向である。学校としては、定員に見合う学生募集をして、中長期的な財務基盤を安定させなければならない。</p> <p>8-29 予算・収支計画<br/>教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定する必要がある。</p> <p>8-30 監査<br/>会計監査については、法人本部の所管で、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じている。</p> <p>8-31 財務情報の公開<br/>財務情報については、法人本部の所管であり、私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、IGL学園のHPに「事業報告」として掲載し公開している。<br/>文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程の申請に伴い、本校の情報公開用HPに「学校の財務」を明示している。</p> | <p>介護福祉学科 101（定員160）、鍼灸学科 48（定員120）<br/>柔整学科 78（定員150）、口腔保健学科 93（定員150）<br/>日本語学科 105（定員150）<br/>平成27年度、国際教養コミュニケーション学科を新設して、日本語教育の向上を図り、学生には希望する大学等への進学を叶えさせる。</p> |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 8-28 財務基盤

| 小項目                                       | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等                                     | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等       |
|---|-------|--|--|--|-----------------|
| 8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか         | 2     | 学校の各学科定員を満たす学生を募集し、財務基盤を安定させる。                           | 各学科の定員に対する在籍学生は40～70%である。                        | 学生定員数に近い学生を募集し、人件費比率を抑える必要がある。                     | 学校 HP<br>財務関係書類 |
| 8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか | 2     | 財務状況を法人本部から提示され、学校存続の必要条件を全教職員が認識する。財務安定に向けて、教育活動を進めていく。 | 事業報告で示される法人本部の財務状況報告に依るのであって、専門学校独自の財務分析となっていない。 | 専門学校の財務状況、各学科の収支状況を示し、専門学校の財務状況を全教職員が理解することが必要である。 |                 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）  |
|---|---|
| 従来の財務状況は、法人本部が「単年度資金収支及び消費収支決算報告並びに監査報告」を公表している。専門学校の「資金収支、人件費収支、消費収支、」を公表しているが、各学科における人件費収支、消費収支が公表されていない。依って、教職員が財務状況を分析することができない。昨年度に続いて定員割れ状況は自覚している。 | 各学科の定員に対する在籍学生は40～70%である。事業報告で示される法人本部の財務状況報告に依るのであって、専門学校独自の財務分析となっていない。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|



## 8-29 予算・収支計画

| 小項目                                    | ※点検<br>進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等                                  | ウ 課題と解決方向                     | エ イの参照資料等 |
|--|-----------|---|---|-------------------------------|-----------|
| 8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか | 1         | 教育目標との整合性を図る事業計画を策定し、その計画に基づき単年度予算だけでなく中期計画も策定すべきである。 | 学校と法人本部の連携が不十分なところで予算を策定している。                 | 中期計画を策定して、予算編成を策定する必要がある。     |           |
| 8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか       | 1         | 事業計画により予算を策定し、適正に執行すべきである。                            | 予算編成及び予算執行全般について、さまざまな改善を図り無駄な支出を防ぎ、経費節減を図った。 | 全教職員が引き続き無駄のない予算執行に取り組む必要がある。 |           |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括                        | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|------------------------------|--------------------|
| 教育目標との整合性を図り、中期計画を策定することが必要。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 8-30 監査

| 小項目                                  | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向  | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------------|-------|---|---|--|-----------|
| 8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか | 3     | 会計監査については、法人本部の所管で、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施する。指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じる。 | 会計監査については、法人本部の所管で、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じている。 | 教職員が財務に関心を持つためには、日常業務が黒字体質かどうかを判断する材料を持つ必要がある。教職員が財務に目を向ける情報を与えなければならない。 | 財務関係書類    |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|---|--|
| 会計監査については、法人本部の所管で、公認会計士による外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合には適切な是正措置を講じている。 | 教職員が財務に関心を持つためには、日常業務が黒字体質かどうかを判断する材料を持つ必要がある。教職員が財務に目を向ける情報を与えなければならない。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 8-31 財務情報の公開

| 小項目                                     | ※点検<br>進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|---|-----------|---|---|-----------|-----------|
| 8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか | 4         | 財務情報については、法人本部の所管であり、私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、I G L学園のHPに「事業報告」として掲載し公開する。<br>文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程の申請に伴い、本校の情報公開用HPに「学校の財務」を明示する。 | 財務情報については、法人本部の所管であり、私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、I G L学園のHPに「事業報告」として掲載し公開している。<br>文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程の申請に伴い、本校の情報公開用HPに「学校の財務」を明示している。 |           | 学校 HP     |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 財務情報については、法人本部の所管であり、私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、I G L学園のHPに「事業報告」として掲載し公開している。<br>文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程の申請に伴い、本校の情報公開用HPに「学校の財務」を明示している。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 基準 9 法令等の遵守

| 大項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>9-32 関係法令、設置基準の遵守</p> <p>本校は、専門学校教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあつてはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。</p> <p>本校は、教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本として、設置学科に適用される社会福祉士介護福祉士法等の関係する諸法令を遵守している。</p> <p>セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための委員会を設置して、運用している。</p> <p>教職員に対しては、毎年度始めの教職員会議において、法令遵守に関する啓発を行っている。適切な学校運営を行うための細則や規程類を整備しており、周知及び適切な運用を推進していかなければならない。</p> <p>在学生に対しては、毎年度始めのオリエンテーションにおいて、「学生便覧」を配布して、学修に関する諸手続、学生生活に係る法令を遵守するよう周知している。</p> <p>9-33 個人情報保護</p> <p>個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。</p> <p>9-34 学校評価</p> <p>本校では、平成18年12月に自己点検・自己評価委員会規程を定めて、自己点検・自己評価を行ってきた。本年度から私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行う。</p> <p>9-35 教育情報の公開</p> <p>平成25年12月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始した。</p> |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

| 小項目                                    | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等 |
|--|-------|--|--|---|-----------|
| 9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか | 4     | 専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあってはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をする。 | 専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあってはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。 | セクシュアルハラスメント等のハラスメント防止のための対応マニュアルを策定して、適切に運用していく。 |           |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 点検中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）                                |
|---|---|
| <p>本校は、専門学校の教育に関わる各種の法令及び専修学校設置基準、また、法令等の指定学科にあってはその指定に関わる基準等を遵守し、適切な運営をしている。</p> <p>本校は、教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準を基本として、設置学科に適用される社会福祉士介護福祉士法等の関係する諸法令を遵守している。</p> <p>セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための委員会を設置して、運用している。</p> <p>教職員に対しては、毎年度始めの教職員会議において、法令遵守に関する啓発を行っている。適切な学校運営を行うための細則や規程類を整備しており、周知及び適切な運用を推進していかなければならない。</p> <p>在学生に対しては、毎年度始めのオリエンテーションにおいて、「学生便覧」を配布して、学修に関する諸手続、学生生活に係る法令を遵守するよう周知している。</p> | セクシュアルハラスメント等のハラスメント防止のための対応マニュアルを策定して、適切に運用していく。 |

最終更新日付

2015年5月24日

記載責任者

野村 敏之

## 9-33 個人情報保護

| 小項目                                | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                                       | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向                         | エ イの参照資料等  |
|------------------------------------|-------|---|--|-----------------------------------|------------|
| 9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか | 3     | 個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図る。 | 個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。 | 学校内の個人情報が厳格に保護されているか、常に点検する必要がある。 | 個人情報に関する規程 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| 個人情報については、その重要性を十分に認識して、学校法人全体の取り組みとして各種情報の保護を図っている。<br>また、「個人情報保護に対する基本方針」を、校舎内の適切な場所に掲示するとともに、在学生に対しては、毎年度始めのオリエンテーションにおいて啓発の機会を設ける。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 9-34 学校評価

| 小項目                               | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標  | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向                              | エ イの参照資料等  |
|-----------------------------------|-------|--|--|--|------------|
| 9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか    | 3     | 自己点検・自己評価委員会規程を定めて、自己点検・自己評価を行う。                             | 自己点検・自己評価委員会規程を定めて、自己点検・自己評価を行った。定量評価できる基準を作成する必要がある。        | 第三者評価に耐えうる自己点検・自己評価を行う。定量評価できる指標を作成する。 |            |
| 9-34-2 自己評価結果を公表しているか             | 3     | 私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行い、評価結果を公表する。                    | 私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行い、評価結果を公表した。                    | 定量評価できる指標を定め、評価の客観性を高める必要がある。          | 学校 HP 自己評価 |
| 9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し、評価を行っているか | 4     | 文部科学省ガイドラインに従って、平成25年度学校関係者評価委員会を設け、11月、26年2月に学校関係者委員会を開催する。 | 文部科学省ガイドラインに従って、平成25年度学校関係者評価委員会を設け、11月、26年2月に学校関係者委員会を開催した。 | 評価結果による改善点に対して迅速に取り組んでいく。              | 学校関係者評価報告書 |
| 9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか          | 4     | 学校関係者評価結果を毎年まとめて公表する。  | ホームページで公表している。   | 特になし。                                  | 学校 HP 学校評価 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>本校では、平成18年12月に自己点検・自己評価委員会規程を定めて、自己点検・自己評価を行ってきた。平成25年度は文部科学省「専修学校の質保証・向上に関するガイドライン」に沿って自己点検・自己評価を行った。学校関係者評価委員会を2回開催して、平成25年度第1回、第2回学校関係者評価委員会報告書を公表した。</p> <p>本年度から私立専門学校等評価研究機構の評価基準に従って点検・評価を行う。</p> |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 9-35 教育情報の公開

| 小項目                            | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標   | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向 | エ イの参照資料等 |
|--------------------------------|-------|---|---|-----------|-----------|
| 9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか | 4     | 平成25年12月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始する。 | 平成25年12月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始した。 |           | 学校 HP     |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| 平成25年12月より文部科学省ガイドライン及び職業実践専門課程に要求されている全項目について、情報公開を開始した。 |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|



## 基準 10 社会貢献・地域貢献

| 大項目総括   | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--------------------|
| <p>10-36 社会貢献・地域貢献</p> <p>○ 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献をしているか。<br/>地域自治会子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会を学校施設内で行うなどの協力をした。</p> <p>○ 国際交流に取り組んでいるか。<br/>日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が日常的に交流して、母国文化を尊重しながら国際交流を行っている。交流は日常的であり、特別にはバディ制度参加、ランチ交流会などを行っている。</p> <p>10-37 ボランティア活動</p> <p>○ 介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して救護活動を行っている。</p> |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 10-36 社会貢献・地域貢献

| 小項目                                  | ※点検進捗 | ア 考え方・方針・目標                                       | イ 現状・具体的な取組等  | ウ 課題と解決方向   | エ イの参照資料等                                   |
|--------------------------------------|-------|---|---|---|---|
| 10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3     | 学校法人の性質上、社会や地域に貢献することが必然であると考えている。                | 地域自治会子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会、各種スポーツ大会等での救護ボランティアなどを学校施設内外で行うなどの活動をした。 | 職業教育の専門学校であるので、より一層の地域参加をしていく。                    |   |
| 10-36-2 国際交流に取り組んでいるか                | 4     | 日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が日常的に交流して、母国文化を尊重しながら国際交流の実をあげる。 | 日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が校舎内で日常的に交流するとともに、バディ制度、ランチ交流会に参加している。                   | 国内学生・留学生ともに勉強・アルバイト等で多用であり、ともに交流する機会は多くないのが実情である。 | 外国人人数<br>教育機関の選定結果<br>バディ制度パンフレット<br>ランチ交流会 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 点検中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|--------------------|
| <p>地域自治会子ども会からの依頼に基づく行事支援、同窓会主催の研修会を学校施設内で行うなどの協力をした。</p> <p>日本語学科に学ぶ留学生と日本人学生が日常的に交流して、母国文化を尊重しながら国際交流の実をあげる。</p> |                    |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|

## 10-37 ボランティア活動

| 小項目                                     | ※点検<br>進捗 | ア 考え方・方針・目標                                | イ 現状・具体的な取組等   | ウ 課題と解決方向                | エ イの参照資料等          |
|---|-----------|--|--|--------------------------|--------------------|
| 10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか | 3         | 福祉・医療系専門学校の強みを発揮する場としても、ボランティア参加を奨励・支援したい。 | 介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して救護ボランティア等を行っている。 | より一層のボランティア参加の機会を増やしていく。 | ボランティア活動実績<br>里孫制度 |

※点検進捗 4：優れている 3：適切である 2：やや不適切 1：改善が必要

| 中項目総括  | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）   |
|--|--|
| 介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して処置の補助を行っている。 | 介護福祉学科においては実習先からの依頼を始め、積極的に推進・支援している。鍼灸学科・柔整学科はスポーツ大会に参加して処置の補助を行っている。 |

|        |            |       |       |
|--------|------------|-------|-------|
| 最終更新日付 | 2015年5月24日 | 記載責任者 | 野村 敏之 |
|--------|------------|-------|-------|